

令和3年度 特別支援教育教育課程編成の手引

令和3年11月

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課

第1章

確かな学力の育成

1 確かな学力の育成

生きる力の一つである「確かな学力」の育成

情報化やグローバル化といった社会的変化が加速度的に進展する複雑で予測困難な時代において、児童生徒が社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら生きるために必要な力である「**生きる力**」を育成することが求められています。



豊かな心

確かな学力

健やかな体

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、次の（１）から（４）までに掲げる事項の実現を図り、児童又は生徒に生きる力を育むことを目指すものとする。

（１）**確かな学力** （２）豊かな心 （３）健やかな体 （４）自立活動の指導

（特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 第１章第２節の２（平成29年４月告示））

1 確かな学力の育成

「確かな学力」の育成

確かな学力を身に付けるためには、
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、

- ・ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得、
- ・ これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成、
- ・ 主体的に学習に取り組む態度の涵養

に努めることが求められています。その際、児童又は生徒の発達の段階を考慮して、児童又は生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するよう配慮することが重要です。

確かな学力を身に付けることができるよう、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童又は生徒の発達の段階を考慮して、児童又は生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童又は生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。

2 確かな学力の育成に向けた授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

個別最適な学び

- 指導の個別化
 - ・ 教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと
- 学習の個性化
 - ・ 子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整すること

協働的な学び

- 探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する

2 確かな学力の育成に向けた授業改善

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

「主体的な学び」の授業改善の視点

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか

「主体的な学び」を実現している子どもの姿



見通しをもつ



振り返って次につなげる



興味や関心を高める



自分と結び付ける



ねばり強く取り組む

「対話的な学び」の授業改善の視点

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」を実現できているか

「対話的な学び」を実現している子どもの姿



多様な情報を収集する



互いの考えを比較する

共に考えを創り上げる



多様な手段で説明する



先哲の考えを手がかりとする



思考を表現に置き換える

協働して課題解決する



2 確かな学力の育成に向けた授業改善

「深い学び」の授業改善の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか

「主体的な学び」を実現している子どもの姿



思考して
問い続ける

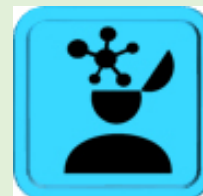
知識・技能を
習得する



自分の思いや考え
と結び付ける

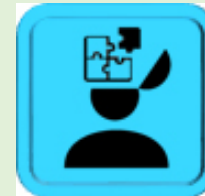


知識・技能を
活用する



知識や技能を
概念化する

自分の考えを
形成する

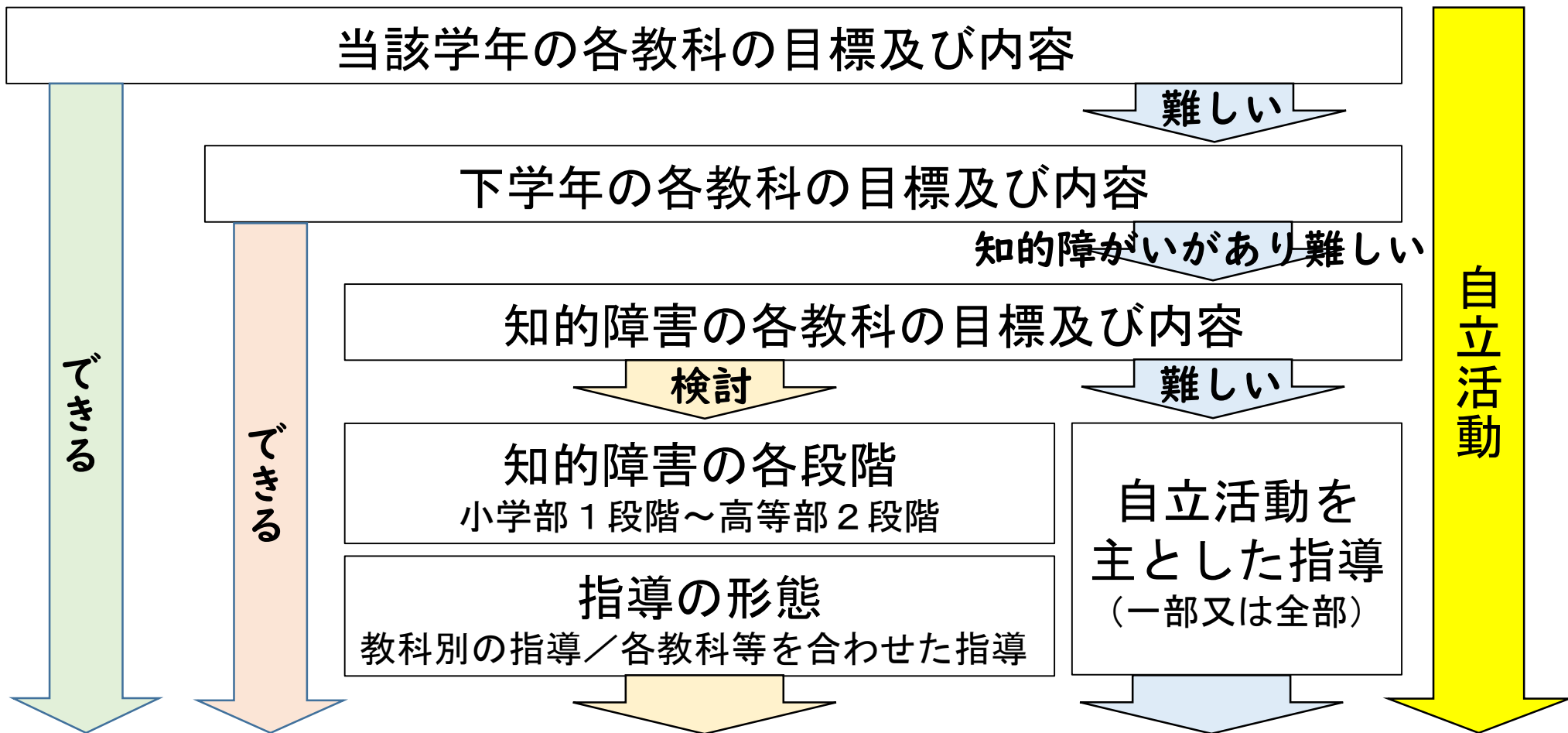


新たなものを
創り上げる

児童生徒の学びの質を高めるために、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現している子どもの具体的な姿を明確にし、単元（題材）や本時の目標を達成するためにどのような手立ての工夫を行うかをデザインすること。

3 特別支援教育における確かな学力の育成に向けた授業改善

教育課程編成の流れ



- 卒業までに育成を目指す資質・能力を検討し、在学期間に提供すべき教育の内容を検討
- 各教科の目標及び内容の系統性を踏まえた教育課程の編成

3 特別支援教育における確かな学力の育成に向けた授業改善

「確かな学力」

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

カリキュラム・マネジメント

発達の段階、習得状況

知的障害の各段階 (※※)

障がいの特性に応じた指導

準ずる各教科 (※)

知的障害の各教科 (※)

特別支援学校・特別支援学級

通級による指導

※「準ずる各教科」：小学校、中学校及び高等学校に準ずる各教科（以下、同様）

※「知的障害の各教科」：知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科（以下、同様）

※※「知的障害の各段階」：知的障害の各教科の目標及び内容を構成する段階（以下、同様）

4 障がいの特性に応じた指導【視覚障がい】

視覚障がいの特性に応じた指導

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編
(小学部・中学部) (平成30年3月)

● 的確な概念形成と言葉の活用

児童が聴覚、触覚及び保有する視覚などを十分に活用して、具体的な事物・事象や動作と言葉とを結び付けて、的確な概念の形成を図り、言葉を正しく理解し活用できるようにすること。

● 点字等の読み書きの指導

児童の視覚障害の状態等に応じて、点字又は普通の文字の読み書きを系統的に指導し、習熟させること。なお、点字を常用して学習する児童に対しても、漢字・漢語の理解を促すため、児童の発達の段階等に応じて適切な指導が行われるようにすること。

● コンピュータ等の情報機器や教材等の活用

視覚補助具やコンピュータ等の情報機器、触覚教材、拡大教材及び音声教材等各種教材の効果的な活用を通して、児童が容易に情報を収集・整理し、主体的な学習ができるようにするなど、児童の視覚障害の状態等を考慮した指導方法を工夫すること。

● 見通しをもった学習活動の展開

児童が場の状況や活動の過程等を的確に把握できるよう配慮することで、空間や時間の概念を養い、見通しをもって意欲的な学習活動を展開できるようにすること。

4 障がいの特性に応じた指導【聴覚障がい】

聴覚障がいの特性に応じた指導

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編
(小学部・中学部) (平成30年3月)

●学習の基盤となる言語概念の形成と思考力の育成

体験的な活動を通して、学習の基盤となる語句などについての的確な言語概念の形成を図り、児童の発達に応じた思考力の育成に努めること。

●読書に親しみ書いて表現する態度の育成

児童の言語発達の程度に応じて、主体的に読書に親しんだり、書いて表現したりする態度を養うよう工夫すること。

●言葉等による意思の相互伝達

児童の聴覚障害の状態等に応じて、音声、文字、手話、指文字等を適切に活用して、発表や児童同士の話し合いなどの学習活動を積極的に取り入れ、的確な意思の相互伝達が行われるよう指導方法を工夫すること。

●保有する聴覚の活用

児童の聴覚障害の状態等に応じて、補聴器や人工内耳等の利用により、児童の保有する聴覚を最大限に活用し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。

●教材・教具やコンピュータ等の活用

視覚的に情報を獲得しやすい教材・教具やその活用方法を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。

4 障がいの特性に応じた指導【肢体不自由】

肢体不自由の特性に応じた指導

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編
(小学部・中学部) (平成30年3月)

●「思考力、判断力、表現力等」の育成

体験的な活動を通して言語概念等の形成を的確に図り、児童の障害の状態や発達の段階に応じた思考力、判断力、表現力等の育成に努めること。

●姿勢や認知の特性に応じた指導の工夫

児童の学習時の姿勢や認知の特性等に応じて、指導方法を工夫すること。

●補助具や補助的手段、コンピュータ等の活用

児童の身体の動きや意思の表出の状態等に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。

●自立活動の時間における指導との関連

各教科の指導に当たっては、特に自立活動の時間における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。

4 障がいの特性に応じた指導【病弱】

病弱の特性に応じた指導

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・
中学部）（平成30年3月）

●自立活動の時間における指導との関連

健康状態の維持や管理、改善に関する内容の指導に当たっては、自己理解を深めながら学びに向かう力を高めるために、自立活動における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。

●体験的な活動における指導方法の工夫

体験的な活動を伴う内容の指導に当たっては、児童の病気の状態や学習環境に応じて、間接体験や疑似体験、仮想体験等を取り入れるなど、指導方法を工夫し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。

●補助用具や補助的手段、コンピュータ等の活用

児童の身体活動の制限や認知の特性、学習環境等に応じて、教材・教具や入力支援機器等の補助用具を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。

●負担過重とならない学習活動

児童の病気の状態等を考慮し、学習活動が負担過重となる又は必要以上に制限することがないようにすること。

●病状の変化に応じた指導上の配慮

病気のため、姿勢の保持や長時間の学習活動が困難な児童については、姿勢の変換や適切な休養の確保などに留意すること。

4 障がいの特性に応じた指導【知的障がい】

知的障がいの特性に応じた指導

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編
(小学部・中学部) (平成30年3月)

実際の生活場面に即しながら、繰り返して学習することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるよう、継続的、段階的に指導すること。

児童生徒の自信や主体的に取り組む意欲を育むことができるよう、学習の過程で、児童生徒が頑張っているところやできたところを細かく認めたり、称賛したりすること。

抽象的な内容の指導よりも、実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるように指導すること。

生活に即した活動を十分に取り入れつつ学んでいることの目的や意義が理解できるよう段階的に指導すること。

指導内容

知的障害の各教科

指導の形態

各教科等を合わせた指導

5 知的障害の各段階

知的障害の段階の考え方

- 知的障がいのある児童生徒が、同一学年であっても、個人差が大きく、学力や学習状況も異なることから、段階を設けることにより、個々の児童生徒の実態等に即して、各教科の内容を精選して、効果的な指導ができる。
- 各教科の各段階は、知的発達、身体発育、運動発達、生活行動、社会性、職業能力、情緒面での発達等の状態を考慮して目標を設定している。
- 各段階の内容は、生活年齢を基盤とし、知的能力や適応能力及び概念的な能力等を考慮しながら段階毎に配列している。
※関わる人の広がり、生活・学習する場の広がり、関わる事柄の広がり

小学部			中学部		高等部	
1段階	2段階	3段階	1段階	2段階★	1段階	2段階

★中学部2段階は新設

5 知的障害の各段階

【小学部1段階】

主として知的障害の程度は、比較的重く、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのにほぼ常時援助が必要である者。

主として教師の直接的な援助を受けながら、児童が体験し、事物に気付き注意を向けたり、関心や興味をもったりすることや、基本的な行動の一つ一つを着実に身に付けたりすることをねらいとする。

国語科の学習内容例

- 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。
- 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。
- 教師の読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。

事例7

算数科の学習内容例

- 具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。
- ものとものを対応させて配ること。
- 分割した絵カードを組み合わせること。
- 関連の深い絵カードを組み合わせること。

事例8

5 知的障害の各段階

【小学部 2 段階】

知的障害の程度は、1 段階ほどではないが、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする者。

主として教師からの言葉掛けによる援助を受けながら、教師が示した動作や動きを模倣したりするなどして、目的をもった遊びや行動をとったり、児童が基本的な行動を身に付けることをねらいとする。

国語科の学習内容例

- 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる
- 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。
- 教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。

事例 9

算数科の学習内容例

- 10までのものとものを対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かること。
- 10までのものの集まりと対応して、数詞が分かること。
- 数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。

事例 10

5 知的障害の各段階

【小学部3段階】

知的障害の程度は、他人との意思の疎通や日常生活を営む際に困難さが見られ、適宜援助を必要とする者。

2段階を踏まえ、主として児童が自ら場面や順序などの様子に気付いたり、主体的に活動に取り組んだりしながら、社会生活につながる行動を身に付けることをねらいとする。

国語科の学習内容例

事例11

- 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。
- 見聞きしたことなどのあらまじや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。
- 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。

算数科の学習内容例

- 100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を整理したりすること。
- 長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。
- 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較すること。

事例12

5 知的障害の各段階

【中学部 1 段階】

小学部 3 段階を踏まえ、生活年齢に応じながら、主として経験の積み重ねを重視するとともに、他人との意思の疎通や日常生活への適応に困難が大きい生徒にも配慮した内容を示している。

主として生徒が自ら主体的に活動に取り組み、経験したことを活用したり、順番を考えたりして、日常生活や社会生活の基礎を育てることをねらいとする。

国語科の学習内容例

- 自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すこと。
- 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
- 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。

事例13

算数科の学習内容例

- 1000までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。
- 長さの単位や重さの単位について知り、測定の意味を理解すること。
- 長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。

事例14

5 知的障害の各段階

【中学部 2 段階】

中学部 1 段階を踏まえ、生徒の日常生活や社会生活及び将来の職業生活の基礎を育てることをねらいとする内容を示している。

主として生徒が自ら主体的に活動に取り組み、目的に応じて選択したり、処理したりするなど工夫し、将来の職業生活を見据えた力を身に付けられるようにしていくことをねらいとする。

国語科の学習内容例

○物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。

○相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。

事例15

○語と語や文と文との関係を基に、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。

算数科の学習内容例

○4位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順位について、理解すること。

○3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。

事例16

○除法が用いられる場面や意味について理解すること。

5 知的障害の各段階

【高等部1段階】

中学部2段階やそれまでの経験を踏まえ、生活年齢に応じながら、主として卒業後の家庭生活、社会生活及び職業生活などとの関連を考慮した、基礎的な内容を示している。

主として生徒自らが主体的に学び、卒業後の生活を見据えた基本的な生活習慣、社会性及び職業能力等を身に付けられるようにしていくことをねらいとする。

国語科の学習内容例

- 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。
- 書く内容の中心を決め、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
- 登場人物の心情や情景について、場面と結び付けて具体的に想像すること。

事例17

算数科の学習内容例

- 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めること。
- 数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフで表したり、読んだりすること。
- データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。

事例18

5 知的障害の各段階

【高等部 2 段階】

高等部 1 段階を踏まえ、比較的障害の程度が軽度である生徒を対象として、卒業後の家庭生活、社会生活及び職業生活などとの関連を考慮した、発展的な内容を示している。

主として生徒自らが主体的に学び、卒業後の実際の生活に必要な生活習慣、社会性及び職業能力等を習得することをねらいとする。

国語科の学習内容例

○目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討すること。

事例19

○互いの立場や意図を明確にしなが
ら、計画的に話し合い、考えを広
げたりまとめたりすること。

○事実と感想、意見などとの関係を
叙述を基に押さえ、文章全体の構
成を捉えて要旨を把握すること。

算数科の学習内容例

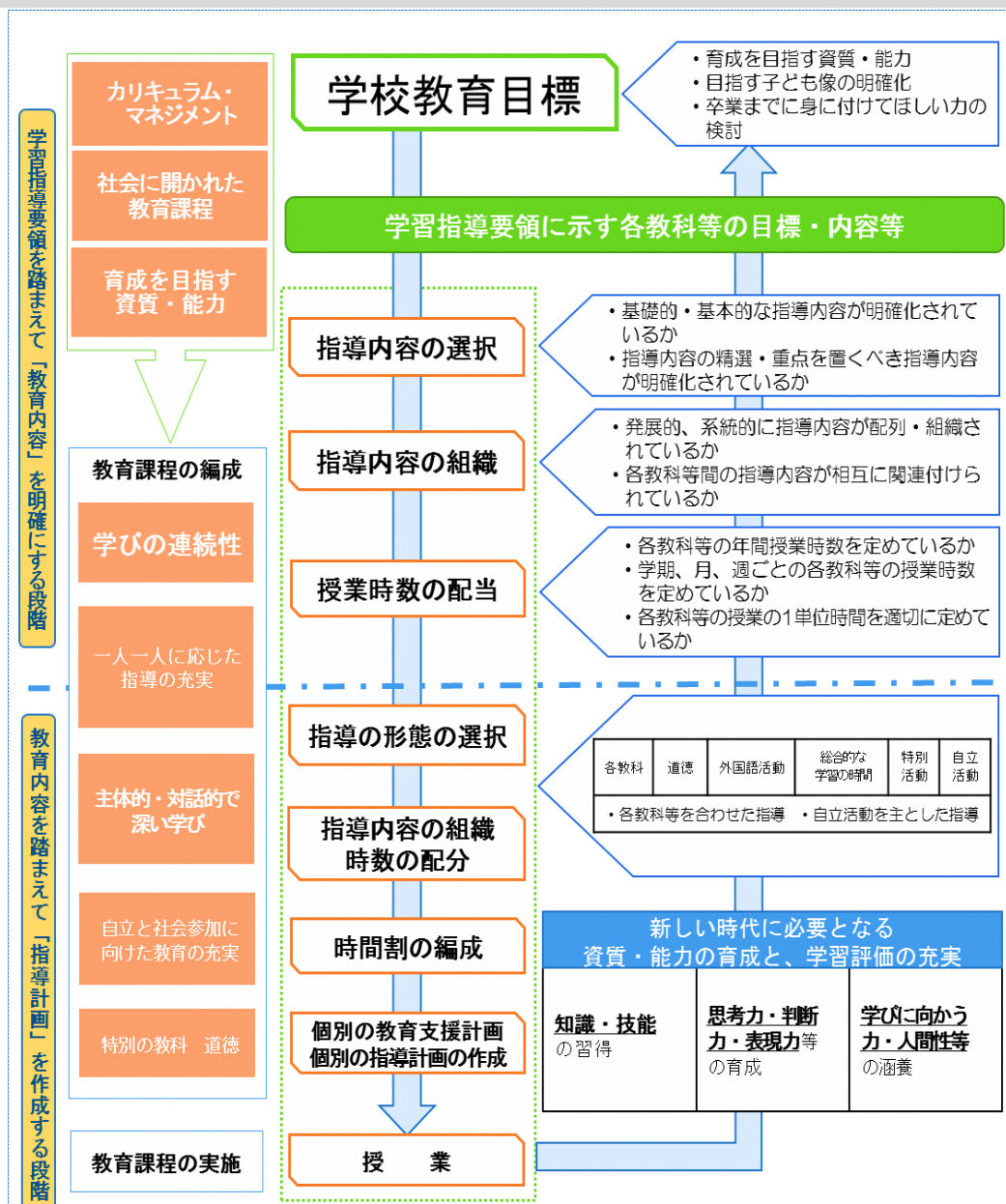
○整数及び小数を分数の形に直した
り、分数を小数で表したりするこ
と。

○数量を表す言葉や□、△などの代
わりに、 a 、 x などの文字を用いて
式に表したり、文字に数を当ては
めて調べたりすること。

○比の意味や表し方を理解し、数量
の関係を比で表したり、等しい比
をつくったりすること。

事例20

6 カリキュラム・マネジメント



北海道教育委員会
「平成30年度特別支援教育
教育課程編成の手引」

6 カリキュラム・マネジメント

指導内容の精選等

児童の視覚障害の状態等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項から着実に習得できるよう指導すること。

児童の言語概念や読み書きの力などに応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くなど指導を工夫すること。

児童の身体の動きの状態や認知の特性、各教科の内容の習得状況等を考慮して、指導内容を適切に設定し、重点を置く事項に時間を多く配当するなど計画的に指導すること。

個々の児童の学習状況や病気の状態、授業時数の制約等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置くとともに、指導内容の連続性に配慮した工夫を行ったり、各教科等相互の関連を図ったりして、効果的な学習活動が展開できるようにすること。

6 カリキュラム・マネジメント

教科等横断的な視点で教育内容を組織的に配列

資質・能力は一度の授業で育成することは難しい・・・



期待する姿が、教科を超えて、学年を超えて、積み重ねられることが資質・能力の育成には効果的



単元配列表を活用し、教育課程を中心に据えて子どもの資質・能力を組織的・継続的に育む

単元配列表の例

教科・領域	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語		単元間の活用・発揮（前後関係）											
算数													
社会													
理科													
総合的な学習の時間													
特別活動		教科間の活用・発揮（横断関係）											
道徳													
音楽													
図画工作													
体育		学年間の活用・発揮（上下関係）											

何をつなぐか？

学校の重点として育成を目指す**資質・能力を軸に！**
※教科等横断的な視点に立った資質・能力

6 カリキュラム・マネジメント

児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

学校の重点として育成を目指す資質・能力

問題発見・解決能力

比較や分類の仕方を理解し使うこと。

国語科①

社会科①

社会的に事象の特色や相互の関連、意味を多面的に考える（中略）力を養う。

総合的な探究の時間

「比較する」「関係付ける」（中略）「多面的に考える」という「考え方」を働かせることにより問題解決を行うことができるようにする。

理科①

理科②

6 カリキュラム・マネジメント

効果的な指導の形態の選択

- ◇ 個々の児童（生徒）の実態に即して、教科別の指導を行うほか、必要に応じて各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動を合わせて指導を行うなど、効果的な指導方法を工夫するものとする。
- ◇ 各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行う場合、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に内容を設定するものとする。

6 カリキュラム・マネジメント

効果的な指導の形態の選択

生活単元学習

- 生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際の・総合的に学習する。
- 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態や生活年齢等及び興味や関心を踏まえたものである。

関連

算数科／数学科

- 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。
(小学部 2 段階 数と計算)
- 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。
(中学部 2 段階 数と計算)

第2章

授業改善に向けた指導計画作成のポイント

事例 1

聴覚障がいのある小学部児童の言語概念の形成を図り、思考力を育成するために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

言語によって思考力を高めることや習言語を習得することに困難さがある。

根拠に基づいて自分の考えを文章で表現できるようにすることで、人物の行動とその理由などについて、表現できるのでは？

根拠を明確にして、登場人物の心のつながりについて、自分の考えを書く。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

意思の相互伝達を円滑かつ活発に行うことが難しい。

主体的にコミュニケーション方法を選択・活用することで、円滑な意思の相互伝達を行うことができるのでは？

音声や手話、指文字等を活用しながら話合いの活動を行う。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

他の教科や活動で身に付けた力を活用することが苦手である。

効果的な見出しの付け方など、これまでの学習で学んだことを想起させることで深く学べるのでは？

見出しの付け方やレイアウト等を工夫して、ポスターを書く。

ポイント③

事例 2**肢体不自由のある児童に具体的操作をとおして確かな学力を身に付けさせるために****●発達の段階や習得の状況に応じた指導**

直線の組み合わせを図形として認識することが苦手である。

図形を見付ける手掛かりがあれば、よいのでは？

直線の色分けやひも、三角形のパズルなどの補助用具の活用等、難易度が異なる複数の課題を用意する。

ポイント①**●障がいの特性に応じた指導**

三角形を見付けられても、直線に沿って線をなぞることが難しい。

腕や手首に力が入りすぎないように、プリントに角度を付れたり、前傾し過ぎずに書ける姿勢をとれるようにしては？

書見台を用いて視線を上げたり、プリントが動かないように固定するバインダーを用いる。

ポイント②**●カリキュラム・マネジメント**

自分の回答に自信がもてず、積極的に発言できない。

難易度の低い学習内容であれば、自信をもって発言できるのでは？

学習の中に既習内容を問う活動を設定し、積極的に発言するきっかけを作る。

ポイント③

事例3

視覚障がいのある生徒に「読むこと」の確かな力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

限られた情報や経験の範囲で概念が形成されたり、理解が一面的だったりして、イメージしにくい言葉がある。

操作する活動を通し具体的なイメージを形づくることで、深い学びにつながるのでは？

教材を用いてイメージしにくいものを体験する学習活動を行う。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

文章を読むのに時間がかかり、内容を的確に理解することが難しい場合がある。

効率的な文章の読み方を指導することで、読書に親しむようになり、読むことの学習に主体的に取り組めるのでは？

接続詞に着目させ、筆者の文意を予測しながら読み進めるようにする。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

視覚からの情報の制限により学習内容の理解が不十分になることがある。

理解した内容を他の教科等と結び付けることで、深い学びにつながるのでは？

年間指導計画において他教科等と題材や指導内容を関連付けるようにする。

ポイント③

事例 4

聴覚障がいのある中学部生徒の言語概念の形成を図り、 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得するために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

基礎的・基本的な学習内容を確実に理解し、身に付けることに困難さがある。

満足感や達成感を感じ、主体的に学習することで、学習内容の定着につながるのでは？

言語概念や読み書きの力に応じて、指導内容を適切に精選する。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

聞こえにくさから、情報を獲得することが難しい。

情報を全体で共有するとともに、情報を視覚的に獲得しやすいよう工夫することで、主体的に取り組めるのでは？

表やグラフを大型提示装置等に投影する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

身に付けた見方・考え方を、様々な場面で生かすことが苦手である。

1次関数の考え方を、他の学習や日常生活などで活用できることが確認できれば深い学びにつながるのでは？

1次関数の考え方をを用いて、課題を解決する。

ポイント③

事例5

視覚障がいのある生徒に「読むこと」の確かな力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

文章を理解し、表現するための漢字や熟語の正しい理解につまずくことがある。

宿題の授業を関連付けた指導を行うことで、漢字や熟語について深く学ぶことができるのでは？

宿題で漢字等を用いた短文作りを行い、授業で宿題の発表や内容を整理する学習活動を行う。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

視覚から情報を得て学習することが困難である。

音声教材や触覚教材を工夫することで、主体的に学習することができるのでは？

音声教材を効果的に活用することにより、文章の内容を理解できるようにする。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

中学部までに身に付けた力を一層向上させる必要がある。

過去に学んだ内容との関係性を具体的に指導することで深く学べるのでは？

過去に取り組んだ学習内容を活用できる題材を計画的に位置付ける。

ポイント③

事例 6

身体虚弱の生徒に基礎学力の定着をとおして確かな学力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

入院や運動制限等による経験不足のため、大きさなどの数量のイメージが苦手である。

量や大きさを視覚的に分かるように示しては？

表計算ソフトで数値をグラフ化する学習に取り組む。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

感染予防のため、別室で学習中も、友だちと一緒に学ぶ場面を保障したい。

指導者の限定やICTの活用でできることはないだろうか？

Web会議システムで他の生徒の教室と結び、副担任が個別に全教科の学習を支援する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

支援を受けることに慣れており、自分で健康を保持する意識が低い。

段階的に自分で健康の保持について考えられる場面を設定しては？

自立活動で取り組んでいる事柄について適宜言葉かけをして気付きを促す。

ポイント③

事例7

小学部1段階の生徒が「聞くこと・話すこと」「読むこと」の経験を積み重ねるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

資質・能力を習得するために、繰り返しの学習が必要である。

支援の程度や内容を変えながら繰り返し取り組むことで定着が図られるのでは？

単元をとおして、興味のある題材を用いたやりとりに繰り返し取り組む。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

体幹や首が安定せず、自分で教材を見ることが難しい。

姿勢や教材の工夫により、学習に集中できるようになるのでは？

近隣校の自立活動教諭等の助言を受けながら、車椅子の角度や教材の位置、色合い等を調整する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

学習の成果を客観的に評価することが難しい。

複数回、成果を確認する場面を設定し、生徒の表情等を確認しては？

生徒の表情や発声の変化を複数の教師で確認した結果を学習評価につなげる。

ポイント③

事例 8

小学部 1 段階の児童が生活に生かせる数量の基礎を身に付けるために

●発達 の 段階 や 習得 の 状況 に 応じた 指導

生活において具体物を操作する機会が不足している。

日常生活の指導と関連付けて、教科等横断的に学んでは？

給食の配膳場面のロールプレイを題材に盛り込んで取り組む。

ポイント①

●障がい の 特性 に 応じた 指導

他の物に気が散り、対象に注目することが苦手である。

気が散りやすい物を撤去したり、注目しやすいよう、学習環境を整えては？

操作する具体物や移動させた後に対応させる「お盆」の色を全ての単元で同じにする。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

自発的に具体物を操作しようとする意欲が低い。

具体物を操作をした結果が、児童にはっきりと分かるよう工夫し、学習意欲につなげる。

正しく対応させたら音が鳴るなど、結果を確認しやすいようにする。

ポイント③

事例 9

言葉だけで理解したり表現したりすることが難しい段階の児童に「読むこと」の確かな力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

言葉で考えを表現することに困難さがある。

ペープサートや劇など、教師や友だちと対話的に学ぶ中で、イメージした登場人物の気持ちを表現できるのでは？

うさぎになりきって、その場の行動や気持ちを表現する活動を設定する。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

言葉からイメージを膨らませることが難しい。

擬態語の音まねや動作化などに取り組むことで、物語の世界をイメージし主体的に学習に取り組めるのでは？

擬態語のリズムやうさぎとかめの動作模倣により楽しみながら読み聞かせを行う。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

身に付けた力を別の場面で活用することが苦手である。

他の教材を用いて、同じ活動に取り組む場面を計画的に組み込むことで、深く学べるのでは？

学校図書館を活用し、他の昔話を自ら選び、絵本を読む機会を設定する。

ポイント③

事例10

10までの範囲の数の系列や順序を理解することが難しい段階の児童に数の数え方や表し方の確かな力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

言葉で数の順序を理解し表現することに困難さがある。

実際的な場面や状況で、教師と対話する中で、順序を考えたり表現したりできるのでは？

カーレースで順位を競う場面を設定し、児童が車の順位を考えられるよう教師が発問する。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

言葉や数字からイメージを膨らませることが難しく、学習への意欲がもちにくい。

具体物を動かす体験的な活動の中に順序を考え表現する必要性のある場面を設定することで、主体的に学習に取り組めるのでは？

カーレースや紙飛行機大会など、児童が主体的に順位を考え表現しようとする活動を設定する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

身に付けた力を別な場面で活用することが苦手である。

他の教材を用いて、同じ活動に取り組む場面を計画的に組み込むことで、深く学べるのでは？

紙飛行機大会を行い、数を用いて順序を考え表現する機会を設定する。

ポイント③

事例11

知的障がいと聴覚障がいがある小学部3段階の児童に、「読むこと」の確かな力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

体験したことや学習したことを言葉と結び付けることが難しい。

音声や手話、指文字を活用して話しを活発に行いながら、教科書本文と結び付けるようにすることで学習内容の定着につながるのでは？

児童が片仮名で書かれているものを読んだり、身の回りから探したりしているかを評価する。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

正しい言葉で理解したり、表現したりすることに困難が見られる。

新たな語彙を獲得し、相手に伝わるように話す方法を工夫することにより、主体的に学習に取り組めるのでは？

理解したことや伝えたいことを文で表現できるよう、児童の発言を拡充したり、正しい話し言葉のモデルを示したりする。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

学習した内容を、別の場面で活用することが難しい。

学習した内容について、他の教科や指導の形態で活用するものなどにも目を向けさせることで、深く学べるのでは？

給食の献立や学習用具、教室の名称など、身近な片仮名探しを行うようにする。

ポイント③

事例12

量を直接比べる方法を理解することが難しい段階の児童に身の回りのものの量の単位と測定に関わる力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

種々の属性から長さに注目したり、長さの相対的な関係を理解したりすることが難しい。

身近にある様々なものの長さを実際に比較する活動を段階的に行うことで、深く学べるのでは？

属性を統一したものや、形状の異なるもの、3つ以上のものの長さを比較する活動を段階的に設定する。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

長さを比べることの意味が分かりにくく、興味・関心をもちにくい。

長さを比べる必要性を感じられる活動を設定することで、主体的に学習に取り組めるのでは？

魚釣り大会を行い、魚の大きさを競う活動を設定する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

考えを言葉で伝え合うことが苦手である。

考えを発表し合う必要性のある活動を設定したり、国語科の学習と関連を図ったりすることで、対話的な学びができるのでは？

魚釣り大会の中で測定方法を考え発表したり、国語科の学習を想起させたりする。

ポイント③

事例13

登場人物の行動や心情の変化を把握しながら読むことが難しい段階の生徒に「読むこと」の確かな力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

抽象的な表現の多い詩では、登場人物の心情等を想像することが難しく、興味・関心をもちにくい。

他教科との関連付けや視覚情報の活用により、イメージを膨らませることができ主体的に学習に取り組めるのでは？

生活単元学習での学習を想起させる、インターネットで春の情景を調べるなどの活動を行う。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

自分の考えを言葉で伝え合うことが苦手である。

自分の考えをもてる活動を設定し、相手に伝える内容を焦点化することで、対話的な学びができるのでは？

自分と比較しながらペアの音読を聞き、互いの良い点を伝え合う場面を設定する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

学んだことを別の場面で活用することが苦手である。

他の教材を用いて、同じ活動に取り組める場면을計画的に組み込むことで、深く学べるのでは？

学校図書館を利用し、他の詩を自ら選び、音読する活動に取り組む。

ポイント③

事例14

中学部1段階の生徒の「量感」を豊かにし、単位を用いて的確に表現するために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

「重い・軽い」は感覚的に分かるが、「はかり」の目盛りを読むことは難しい。

重さを比較する方法を理解することで、ものの重さへの理解が深まるのでは？

天秤を活用し、傾きからおおよその重さを比較できるように指導する。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

重度の金属アレルギーがある。

金属アレルギーに配慮し、安全に測定の学習に取り組めるようにしては？

アレルギー物質に直接接触れずに測定できるよう、ゴム手袋を着用する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

見通しがもてない授業では、主体的に活動に取り組むことが難しい。

単元計画を通じて、授業の展開・流れを共通化しては？

授業の展開を導入時に提示するとともに、1単位時間の中に、はかりで重りを図る時間を毎回設定する。

ポイント③

事例15

知的障がいと聴覚障がいがある、中学部2段階の生徒に「書くこと」の確かな力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

一人では、書く内容を考えることが難しい。

具体的な活動に取り組むことを通して、音声や指文字、手話を活用しながら、話し合いを活発に行い、書く内容を想起することで、情報をまとめることができるのでは？

書く内容を選び、情報を整理しながら伝えたい内容を明確にしているかを評価する。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

形式的な内容になってしまうなど、思いや考えを文にして表すことが難しい。

言語概念の形成や、生徒の発達に応じた思考力の育成につなげることで主体的に学習に取り組めるのでは？

適切な言葉で表現させるとともに、板書し、文字情報として残すようにする。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

学習した内容を生活の中で生かすことが難しい。

他の教科や指導の形態の取組の充実につなげることで深く学べるのでは？

切手の購入やポストへの投函を行うほか、学校生活や家庭生活の中で、手紙を書く機会について考える。

ポイント③

事例16**3 位数の加法及び減法の計算が難しい段階の生徒に「数と計算」の確かな力を身に付けさせるために****●発達段階や習得の状況に応じた指導**

3 位数の加法及び減法の計算の意味を理解できず、興味や関心をもちにくい。

生徒の興味・関心のある活動の中で計算をする場面を設定することで、主体的に学習に取り組めるのでは？

ボウリング大会を行い、合計得点を計算する活動を行う。

ポイント①**●障がいの特性に応じた指導**

日常生活の事象を数学的に捉え筆算に表したりすることが難しい。

計算が必要な場面を設定し、計算の方法などを生徒同士が対話的に学ぶことで理解が深まるのでは？

ボウリングの合計得点を計算する際に、工夫して計算した点を発表し合う活動を取り入れる。

ポイント②**●カリキュラム・マネジメント**

学んだことを別の場面で活用することが苦手である。

本単元で身に付けた力を他の学習活動で発揮できる場면을計画的に位置付けることで、深く学べるのでは？

生活単元学習における買い物学習や、宿泊行事等における金銭出納帳の記入などの学習活動と関連付ける。

ポイント③

事例17**相手や目的を意識し、伝えたいことを明確にすることが難しい段階の生徒に「書くこと」の確かな力を身に付けさせるために****●発達段階や習得の状況に応じた指導**

文章を書く目的を意識することが難しく、学習に対する興味や関心をもちにくい。

本題材が今後の学習活動につながることを理解することで、主体的に学習に取り組めるのでは？

自分史を、現場実習などの場面で自己PR等に活用できることを伝える。

ポイント①**●障がいの特性に応じた指導**

伝えたいことが明確になるように書く材料を整理することが難しい。

書こうとしたことが明確になっているかについて、対話的な学びを通して、よりよい文章にすることができるのでは？

集めた材料を基に作成した文章の構成について、生徒同士で感想を伝え合う場面を設定する。

ポイント②**●カリキュラム・マネジメント**

読み手に伝わるよう、文章の構成を工夫することが苦手である。

国語科における段階間や他領域とのつながりを踏まえた指導を行うことで、文章の構成について深く学べるのでは？

中学部までの「書くこと」や、「聞くこと・話すこと」の学習内容を関連付ける。

ポイント③

事例18**高等部1段階の生徒がデータを活用して課題解決力を身に付けるために****●発達段階や習得の状況に応じた指導**

目的に応じた適切なグラフを選択することが難しい。

これまでに学んだグラフから選択できるようにしては？

これまで学んだ全てのグラフのカードを掲示し、見比べながら適切なものを選ぶようにする。

ポイント①**●障がいの特性に応じた指導**

キーボード入力で数値を入力することが難しい。

ICT機器の設定を調整することで入力できるのでは？

タブレット端末のアクセシビリティ機能の活用や、スクリーンキーボードでの入力をできるようにする。

ポイント②**●カリキュラム・マネジメント**

数学への学習意欲が低く、授業態度が受け身である。

興味のある作業学習（職業・理科・自立活動等）と関連付けて学んでは？

製品販売会の売り上げデータを題材として取り扱うことで、学習意欲の向上を図るとともに、作業学習において学習成果を活用できるように単元を構成する。

ポイント③

事例19

話す目的や意図に応じて伝える内容を検討することが難しい段階の生徒に「聞くこと・話すこと」の確かな力を身に付けさせるために

●発達の段階や習得の状況に応じた指導

発表することの目的を理解することが難しく、学習への興味や関心をもちにくい。

生徒の興味・関心のある題材を取り上げることで、生徒が伝えたいという思いをもち、主体的に学習に取り組めるのでは？

日本のポップカルチャーを題材に、グループで発表する内容を選択できるようにする。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

聞き手の興味・関心を踏まえ、伝わりやすい内容に改善することが難しい。

表現の伝わりやすさについて、教師や他生徒と対話を通して考えることで、改善点に気付くことができるのでは？

グループ同士で発表内容を聞き合い、相互評価する場面を設定する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

学んだことを別の場面で活用することが苦手である。

本単元で身に付けた力を他の学習活動で発揮できる場면을計画的に位置付けることで、深く学べるのでは？

年間指導計画を見直し、見学旅行報告会や現場実習報告会での発表と関連付ける。

ポイント③

事例20

比例の考え方など、日常生活の場面と関連付けて考えることが難しい段階の生徒に「変化と関係」の確かな力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

二つの数量の関係を見いだして、変化や対応の特徴を考察することが難しい。

生徒の身近にある題材を取り上げ、主体的に取り組めるようにすることで、比の意味を理解することができるのでは？

アルバイトの時給について、比例を用いて、時間と給料の変化の規則性を捉えられるようにする。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

比例の考え方など、日常生活の場面と関連付けて考えることが難しい。

生活と関連する実際的な内容を学習課題として取り上げ、生徒同士で考える場面を設定することで理解が深まるのでは？

アルバイトを題材に、時給、勤務時間が異なる3人の給料をグラフを用いて考える場面を設定する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

学んだことを別の場面で活用することが苦手である。

本単元で学んだ考え方を、別の教科と関連付けて活用することで、深く学べるのでは？

調理学習を題材に、好みのドレッシングのレシピを作る学習を実施する。

ポイント③

事例21**言語障がいがある小学校第1学年の児童に「読むこと」の確かな力を身に付けさせるために****●発達段階や習得の状況に応じた指導**

音読や発表などの活動で自信をもって取り組むことが難しい。

安心できる雰囲気の中で、話すことに自信をもてるようにすることで、意欲的に学習に取り組めるのでは？

内容の大体を捉え、重要な語や文を選びながら読んでいくかを評価する。

ポイント①**●障がいの特性に応じた指導**

言葉が出なくなることへの不安が強く、緊張が高まってしまふことから、思ったように話すことが難しい。

児童が、「楽に話すことができた。」と感じる経験を積み重ねることで、主体的に学習に取り組めるのでは？

教師と一緒に教科書を音読することで、気持ちを楽にしたり、聴覚的なフィードバックを得ながら読むことができるようにしたりするほか、児童の話している内容に興味を持って聞くようにする。

ポイント②**●カリキュラム・マネジメント**

学校生活の中で、不安を感じ、緊張してしまう場面が多い。

本単元での取組の成果を他の教科等においても活用・発揮できるようにすることで深く学べるのでは？

個別の指導計画の指導内容・方法の見直し等を行う。

ポイント③

事例22

全体より部分を細かくとらえる傾向のある児童に「数の表し方の仕組み」の確かな力を身に付けさせるために

●発達 の 段階 や 習得 の 状況 に 応じた 指導

特定の事柄にしか興味がなく、簡単な計算だと時間をもてあましてしまう。

十分な学習量を確保しておくことで、変化を楽しみながら答えを求めるのでは？

既習事項を振り返るプリントを行い学習への意欲を維持する。

ポイント①

●障がいの特性 に 応じた 指導

自分の興味のあること以外に関心が向きにくい。

視覚的に理解しやすいよう、課題やヒントの提示方法を工夫することにより主体的に学習に取り組めるのでは？

基準量と比較するための具体物を操作した動画したを提示して、学習活動を設定する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

身に付けた見方・考え方を様々な場面で生かすことが苦手である。

数を表す仕組みが、日常生活で活用できることを計画的に組み込むことで、深く学べるのでは？

日常生活で小数を使用した、倍数を集め、自身の生活に関連づける機会を設定する。

ポイント③

事例23

抽象的な表現が意味する内容を理解することが難しい段階の生徒に「読むこと」の確かな力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

抽象的な表現が意味する内容を理解することに困難さがある。

キーワードを図や矢印などで分かるように示すことで、正確に意味を理解し、主体的に学習に取り組めるのでは？

筆者の考えを捉え、要旨の把握や要約、内容を解釈する活動を設定する。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

相手の言葉を字義どおり受け取り、真意を読み取ることが難しい。

共同編集ソフトや会話の文字認識機能を活用することで、相手の発言の意図を理解することができるのでは？

思考や発言を記録に残しておくことにより、友達と交流し自分の考えの相違点に注目する活動を設定する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

友達と交流して、自分の考えを深めることが苦手である。

教師が作成したロールプレイの録画を視聴することにより、自分の考えと対話することで深く学べるのでは？

ICTを活用し、録画した意見発表を自ら選び視聴し、自分の考えを深める活動を設定する。

ポイント③

事例24

抽象的な表現が意味する指示の内容を理解することが難しい段階の生徒に「データの活用」の確かな力を身に付けさせるために

●発達段階や習得の状況に応じた指導

抽象的な表現が意味する内容を理解することに困難さがある。

数学用語の振り返りを充実させることで、用語の意味を理解し主体的に学習することができるのでは？

新しい単元に入る時や、授業のはじめに既習事項について振り返る活動を設定する。

ポイント①

●障がいの特性に応じた指導

順序や時間等の概念を形成することが難しい。

用語の意味について図示することにより、理解を促し、既習事項との対話的な学びができるのでは？

作図に係る手順表を使い、相対度数を求める活動を設定する。

ポイント②

●カリキュラム・マネジメント

身に付けた力を別の場面で活用することが苦手である。

他教科等の学習場面において、データの活用や、グラフを作成する場면을計画的に組み込むことで、深く学べるのでは？

グラフを作成する学習活動を単元計画に設定する。

ポイント③

事例25 読み書きに関する困難を改善するために

●通級による指導と在籍する学級の各教科等の指導との関連

教科書の音読や内容理解の困難さから、学習意欲を保つことが難しい。

ICT機器を活用し、読むことの困難さを軽減することで、主体的に学べるのでは？

デジタル教科書の読み上げ機能を活用し、新しい単元の予習を行うことにより、教科書の内容を理解し、学習内容に見通しをもつ。

ポイント①

読むことの困難さから、交流場面で、書いた文章を読み合いながら話し合うことが難しい。

通級による指導で身に付けた力とともにICT機器を活用することで、読むことの困難さを補い、対話的な学びが実現できるのでは？

他児の文章を写真で撮りスラッシュ読みをしたり読み上げ機能を活用したりしながら他児の考えを理解し、話し合いを行う。

ポイント②

書くことの困難さから、自分の考えを書いて表現することが難しい。

通級による指導で身に付けた力とともにICT機器を活用することで、考えを表現でき深く学べるのでは？

「短文スキル」や「マッピングソフト」等を活用し、発見したことや不思議に思ったことなどを表現する。

ポイント③

第3章

学習評価の充実

1 学習評価の充実に向けて

指導の評価と改善

児童又は生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）

1 学習評価の充実に向けて

- ◇ 各学校において目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、観点ごとに評価規準を定める必要がある。
- ◇ 評価規準とは、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものである。
- ◇ 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、資質・能力の育成に生かすようにすること。

文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」

準ずる各教科



国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」

知的障害の各教科



文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」

1 学習評価の充実に向けて

評価規準と評価の計画の作成例

文部科学省「特別支援教育」令和3年秋 No.83より一部抜粋

題材：おじいさんとねずみの おはなし

- ・ 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（知識・技能）
- ・ 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像している。（思考・判断・表現）
- ・ 絵本など図書に親しむとともに、言葉を使ったやり取りを楽しみながら、自分の思いや考えを伝えたり、相手が伝えようとすることを受け止めたりしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）



時	主な学習活動	評価の計画		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	読み聞かせを聞き、話の見通しをもつ。			○
2	読み聞かせを聞いたり、本文を読んだりして、物語の大体の内容を捉える。		○	
3～4	場面ごとに、登場人物の行動や様子を捉え、創造を広げながら音読する。		○	
5	言葉の響きやリズムに親しみながら、工夫して音読する。	○		
6	学習の振り返りをする。			○

1 学習評価の充実に向けて

個別の指導計画に基づく評価

各教科等の指導に当たっては、個別の指導計画に基づいて行われた学習状況や結果を適切に評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善に努め、より効果的な指導ができるようにすること。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）

個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくこと。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）